

## 道路植樹帯の管理について

Q 1) 週に一回程度、道路沿いを子どもと一緒にゴミ拾いをしているのだが、植樹帯のところに元気よく生えてる草、そこにポイ捨てゴミがひっかかっていることが多く、また、車を走らせても、市内の道路の植樹帯や植樹帯の芝がぼうぼうなのが目に留まる。たまたま草刈りが行われていなかったのか。その管理が気になる。今年は春先の好天や降雨のせいか例年に比べ、芝の伸びが早く感じるのだが、そこで、草刈り業務の頻度と時期及び、現在の草刈りの状況について伺う。

A) 市道の植樹帯及び植樹帯の草刈りは、頻度を年2回とし委託業務で実施しており、1回目は4月下旬～7月末、2回目は8月上旬～10月下旬の間で、生育状況に合わせて実施している。草刈りの状況は、各事業者毎に順次実施しているが、委託する建設・造園業界が公共事業の縮減に伴い人員削減を実施していることや、昨年の台風による災害復旧工事に多くの人手を取られ人材確保が困難なことから、草刈り業務の一巡に相応の時間を要していることと、例年に比べ草の成長が旺盛なため、未実施の部分が目立つ状況となっている。なお、各委託業者は、7月末迄に草刈りが一巡できるよう作業をすすめているので、ご理解をいただきたい。

Q 2) 昨年の台風による罹災が、市内の草刈り業務まで影響しているとは驚いた。作業はまだ途中であるとのこと。次に明星通りや柏林台通りなど市内道路の植樹帯や植樹帯には、サルビアの赤い花が目につくが、道路を彩るこうした事業にはどのようなものがあるのか。

A) 本市が道路の植樹帯や植樹帯で取り組む花事業は、「フラワー通り整備事業」、「帯広を緑と花でつつむ花壇コンクール」、「花と緑の街づくり運動」、「緑化重点地区の花苗助成」等があり、町内会、市民団体及び、市民ボランティア等と本市が連携してすすめている。

Q 3) 花事業の「フラワー通り整備事業」と「花壇コンクール」について、事業内容とその維持管理の状況について伺う。

A) 「フラワー通り整備事業」は、樹木緑化が難しい市街地において、植樹柵や植樹帯を連続的に花壇化することにより道路に色彩を与える事業であり、花植えや維持・清掃管理については、町内会や老人クラブなど地域住民の協力のもと実施している。「花壇コンクール」は、帯広市と「帯広を緑と花で美しくする運動実行委員会」の共催により、植樹柵部門、町内会・会社部門、老人クラブ部門、学校部門の4部門で、審査・表彰を行っている。5月下旬から8月下旬までを開催期間としており、花壇の造成場所は、道路の植樹柵の外、公園や小中学校等の前庭となっている。また、花植えや維持・清掃管理は、応募を行った町内会、老人クラブ、学校及び、企業により実施している。

Q 4) 道路の植樹柵や植樹帯の花植え事業や、草取りなどの維持管理は、市民協働のもと、主に町内会が担っているとのこと。しかし、町内会は会員の高齢化がすすみ、こうした花事業などに参加する担い手が不足しているのが現状。事業を進めていく上で、市が直面する課題や対策などがあれば伺う。

A) 「フラワー通り整備事業」は、町内会活動の低迷や会員の高齢化に伴う担い手不足により、古くからの会員の負担が重くなるため、活動を辞退する町内会がみられ、未実施の区間が増える等、今後、事業の継続や効果が危ぶまれる恐れがある。「花壇コンクール」は、実行委員会の新規会員が集まらず、今後、現会員の高齢化などにより、事業の実施に支障がでてくる恐れがある。町内会など市民ボランティアの担い手不足の解消には、世代的な広が

りを持たせることが必要であり、活動団体としてアプローチが足りなかった企業への働きかけを行う外、市民ボランティアの公募、シルバー人材センターの活用など、幅広く人材確保と育成に向け検討を行う考えでいる。

意見) 道路の植樹柵や植樹帯の草刈り等の維持管理は、財源的にも 2回/年程度の頻度になること。また、昨年の罹災の影響による、事業者の人手不足から、草刈り業務に、多少、遅れが出ていることは、ある程度、止むを得ないものと理解した。今回は道路の植樹帯の花植え事業という切り口で、事業内容等について伺った。フラワー通り整備事業のような、道路上での花事業の推進は、市民協働のもと街を彩るだけではなく、維持管理の軽減にも繋がっている側面がある。只、こうした花事業を推進するにあたっては、少子高齢化社会の進展とともに、担い手が不足することも考慮に入れ、事業をすすめていく必要があると考える。町内会などボランティア頼みだけでは無く、例えば、市内の企業などから、協力を得られるような「仕組み」を造る言ったことが必要になるのではないか。さらに町内会と連携することが可能となれば、所管としては総務委員会になってしまうが、町内会活動の弱体化や理解促進、地域コミュニティの疲弊解消につながるのではないか。町内会活動の活性化は、様々な絡みがあり、市民活動部だけで解決できる問題でもないので、様々な角度から切り込んで進めていく必要があると考える。多くの地域住民に参加して頂ける事業を考え、顔の見える関係性を整えることで地域コミュニティの活性化につなげていければと願う。最後に、人口減少社会の到来に伴い、今後、帯広市は、新たな「仕組み」造りを検討するとともに、新しい「市民協働」の在りかたについて、検討していただくことを提案し、

質問を終わる。